

大課題名: **新** 新たな肉質のモモ「甲斐トウ果17」の特性を活かした省力栽培技術の確立(R3~5)・成長戦略研究候補

小課題名: **新** 1 品種特性を活かした省力収穫技術の開発(R3~5)

小課題名: **新** 2 これまでに開発した省力化・高付加価値化技術の適応性検証(R3~5)

小課題名: **新** 3 省力収穫技術に適した新たな仕立て方法の開発(幼木期)(R4~5)

背景とねらい

○「甲斐トウ果17」は、日持ち性や輸送性が良く、食味良好な新たな肉質のモモである。収穫期が高温でも軟化が進みにくく、温暖化にも対応できる。また、輸出用としても期待できる。

○モモの収穫は全作業時間の約2割を占めるが、本品種の樹上での日持ち性の良さや、押し傷がつきにくい特性を活かすことで、従来にない収穫の省力化が期待できる。

○また、本品種においては、果樹試験場でこれまで開発した省力化や高付加価値化技術の適応性は確認されていない。

○そこで、「甲斐トウ果17」について、省力収穫技術を開発し、省力化・高付加価値化技術の適応性を検証する。さらに、省力収穫技術に適した新たな仕立て方法の確立に向け、幼木期の検討を行う。

【課題の要請元】

販売・輸出支援課、果樹園芸会

試験内容

1. 品種特性を活かした省力収穫技術の開発
 - (1) 果実成熟特性の解明
着果部位や袋かけの有無による果実成熟の推移を調査する。
 - (2) 一斉収穫方法の開発
着果部位ごとに一斉収穫を行う場合の収穫範囲や時期を検討する。
 - (3) 樹勢への影響調査
収穫期間が長いと、樹勢低下の恐れがあるため、収穫時期と樹勢の関連を調査する。
2. これまでに開発した省力化・高付加価値化技術の適応性検証
 - (1) 摘蕾・摘花を主とした早期着果調節
 - (2) 高付加価値化技術(文字入れ、大玉化)
3. 省力収穫技術に適した新たな仕立て方法の開発(幼木期)
 - (1) 仕立て方法(改良斜立、一文字、改良Y字など)の検討
 - (2) 台木の検討
生育抑制効果のある台木(ひだ国府紅しだれ、つくば5号など)の利用を検討する。

期待される効果

○省力栽培技術を確立し、マニュアルを提示することで、従来に比べ作業時間を大幅に削減できる。

○作業時間の削減により、規模拡大が可能となり、農家所得が向上する。

○「甲斐トウ果17」の生産量が拡大し、高品質な果実が安定供給され、山梨県産果実のブランド力が強化される。

○これらの技術は、今後開発される新たな肉質のモモにも活用が期待できる。

【行政政策上の位置づけ】

○山梨県総合計画
戦略 1-政策 3-3 オリジナル品種の育成、高品質化の推進

○やまなし農業基本計画(アクションプラン)
I-2-(3)-①地球温暖化に適応した品目・品種、栽培技術の開発・普及

I-3-(1)-①優良品種の開発・普及

